



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.30 (2008.1.25)



目指せ英語教員！ 模擬授業に挑む学生たち

国際学部では、中学校・高等学校の英語の教員免許状を取得することができます。教員免許状取得のための必修科目の一つに「教科教育法B」(担当:青木信之教授)という授業があります。その授業の特徴は学生が4～5人のグループを作り、毎週一つのグループが模擬授業を行うことです。模擬授業を担当する学生たちは、授業準備をするために、語学センターの空き教室を使って練習しています。そこで今回は2つのグループに模擬授業の練習と本番についての感想を寄せてもらいました。練習風景写真と合わせてお届けします。

目次：	
目指せ英語教員！	1
トンネル版 aQ 直伝 (4)	2
ミニコラム：	
国際学部 ヴェール先生	3
デジタルラボ：音声の利用	3
事務室をのぞいてみよう／外国映画 上映会	4

語学センター・語学教務員 伊達 美和子

Group1 朝から晩まで猛特訓

(国際学部3年 大津慶子さん)

今回、私たちのグループは、教科教育法Bの模擬授業のために、毎日2～3時間、3週間に渡って語学センターを利用しました。そして、語学センターのメリットに多く気づかされました。

例えば、大きなスクリーンに、教師用のパソコンの画像を転送することで、生徒の理解を視覚的に助けることができることや、教材を前もって準備できるため、授業時間を有効に活用でき、授業を円滑に進めることができることなどです。

模擬授業当日も、常に体を前に向けて授業ができることから、生徒役の学生が理解しているののかも、表情から読み取ることができました。実際に、生徒役の学生からは、絵や図を用いて行われる授業は、興味関心を持つことができた、という意見をもらいました。

語学センター教室のシステムを実際に利用することができ、貴重な体験ができたと思います。このようなシステムがどんどん普及してほしいと思いました。



403B 教室での練習風景



左から国際学部3年
渡邊千尋さん、吉本愛さん、
平田光輝さん、大津慶子さん



403A 教室での練習風景



左から国際学部3年
西村有紀子さん、安谷屋睦子さん、
佐藤未希さん、小倉歌織さん

Group 2 パワーポイントを有効活用 (国際学部3年

佐藤未希さん、西村有紀子さん)

教科教育法Bという授業では、実際に英語の授業を組み立てて授業を実施するという模擬授業が行われます。

私たちは、模擬授業が近くなると毎日のように空いている語学センターの教室を借りて練習をしていました。今回の模擬授業で私たちは、特にパワーポイントを用いてスライドに映し出すことで、限りある授業時間を有効に使うように努めました。本番の授業では、機器の操作に少し手間取ることもありましたが、スライドのおかげで単語や文法のイメージがつかみやすかったという感想をもらえました。

このような機器を上手く使いこなすことにより、授業によりいっそうの深みを増すことができ、生徒の理解につながると考えられます。そのためには、教師側である私たちが機器を使いこなす技術を身につける必要性を感じました。

また、このような充実した設備に触れる機会が先生や教職履修生だけでなく、それ以外の学生にももっと増えればいいと思いました。



トンネル版 aQ 直伝 (4)

フィレンツェ、アテネ、エディンバラ、ワルシャワからの葉書

イギリス留学中のQくんからの絵葉書。夏と冬の休暇を利用してのいくつかのヨーロッパ都市めぐりの報告である。

7月11日『近代政治思想の基礎』(Q. Skinner) を携行してのフィレンツェ。海上都市ヴェネツィアの教会建築の基礎は富であった〔に過ぎない―編者補(以下同)〕が、人間の不完全さの上に築かれたフィレンツェのそれは富とともに“自由”だった。サヴォナローラが火刑に処された〔シニョリア〕広場を見ました。アルノ河畔を経てウフィツィ美術館の柱状回廊を抜けると、“広場 square”の、空間だけで個人を圧倒する政治的威力を認識しました。極めて容易に煽動されながらもその方向性において予測不可能な群衆によって、煽動的弁論家のサヴォナローラが救世者から流神者に一気に引きずり降ろされ焚殺される様子がまざまざと感じられました。おすすめのウフィツィのシモーネ・マルティーニやボッティチェリより、マキャベリやサヴォナローラのほうが私の関心をひきます。都市なるものの一般性と普遍性。美しい都市の一瞬がおしなべて私に広島都市性をかえりみさせます」。

7月19日「今アテネ。昨日アクロポリス(背面)と、プラトンの作った学校アカデミアを見ました。アカデミアの前に立った時、いわば『たどりついた』という気持ちでした。門前にソクラテスとプラトンの像が鎮座しています。西欧の知の源流はOxfordではなく、ましてHarvardでもなく、ここ。現在は講堂のみ。アテネ大学の史跡のひとつ。井上達夫先生の研究室には巨大なプラトン像が置いてあります。座るとプラトンが先生をにらみつける位置。自分もその辺の土産品店で手の平サイズのソクラテス像を買って勉強机の上に置こうか。今からエーゲ海でひと泳ぎ。世俗の垢を洗い流したい」。

8月6日「友人と格安バスでエディンバラとグラスゴーへの旅。『北のアテネ』と呼ばれるエディンバラは、ロンドンより文句なしに、そして本物のアテネ以

上に、美しい街でした。

グラスゴー大学はアダム・スミスが学んだところ。スミスの友人エドモンド・バークは「忘却こそ取り返しのつかない悪行の唯一の解決策である」と述べています。「記憶こそ民衆の抵抗の手段」とするミラン・クンデラとは対照的に、既成事実の存在を前提とする保守主義の心性を、バークの立場はあらわしています。広島が“取り返しのつきえる”ことになりえるか、広島の記憶がさらに何らかの手段によって“取り返した”ことになりえるのか、私は広島以前や広島以外も学ぶことでその問いの答えを求めているのだと自分の気持ちを整理してみます。「どうしても取り返しのつかぬことをどうしても取り返すために」(木下順二)です。



エディンバラは本当に美しい街です。灰色の石造りの街を同行者はsad cityというが、私はその悲しさが好きです」。

12月8、9、10日「ワルシャワ着。幸いワルシャワのイメージにふさわしい吹雪に迎えられた。ところがどうして。街は非常に面白く魅力的。東欧のパリか。広く開けた大通り、屋台ふうのキオスクはソウルに近い。物価は英国の1/2、日本の2/3程度と安いが経済は安定の印象。EUがポーランド〔2004年にEU加盟済〕のユーロ〔通貨〕加入を拒むのは理不尽。ポーランドの実力と美しさはもっと評価されてよい。市の中心に『Gift from Stalin』と呼ばれる馬鹿高いソビエト時代のタワーがあり、それが今はラスベガスのようなイルミネーションを施され雲にかかっているのがまことに奇妙奇ッ怪で素晴らしい。

ロンドン、東京の雑然さに比し、ワルシャワはTVで見るピョンヤンと同じく、基本的構造が整然としている。

全欧最大のユダヤ人ゲットー跡地を見学。来て見て初めて気づく。ここは世界史の教科書に載っていた、西独首相ブランドが碑の前でひざまづいた、あの場所。白一色、雪に覆われたワルシャワの今日は青空。今晚、夜行バスで古都クラコフへ。では又」。

(非芸院極枯碎)

「外国語とアイデンティティ」

国際学部教授 ウルリケ・ヴェール



言葉は、ただの道具ではない。それは文化、ひいてはアイデンティティと密接に結びついているものである。それを初めて痛感したのは、8歳のときにドイツの南部にあるシュワーベン地方からもっと北の方にあるラインラント地方に引越した際である。ドイツは日本と同じように、地方によって話し言葉が異なり、つまり方言が存在する。そんなことを想像もしなかった私には、引越し先での言葉が違うという経験は大きなショックとなった。しかしもっと大きなショックを受けたのは、新しいクラスメートに「外国人だ」と言われたときであった。

ラインラントの方言は、私が習得した最初の「外国語」となった。次第に、家族の間で話続けていたシュワーベンの方言と新しく身に付けていた方言は、異なる二つの「文化」、そして異なる二つの自分を実践し、表現する媒介となった。言葉の間の切り替えが上手くなるにつれて、二つの文化、二つの自分の間の切り替えが楽しくなり、複数のアイデンティティをもつ自分を肯定できるようになった。そのあと英語、そしてフランス語を習い始め、色々な国でホームステイしたりしてきたが、それは「異文化」を経験するというより、更なるアイデンティティを習得するきっかけとなった。

楽々デジタルラボ 其の三

外国語学習と音声の利用

語学センター・語学教務員 堀本 真由美

メディアの変遷には幅広く対応

語学センターには現在CALL教室が自習室を含め5つありますが、その前身はLL教室です。LLの時代から外国語学習で音声利用のために長く親しまれてきたカセットテープも、現在では学生が使用することはほとんどなく、語学センター内では教師卓で扱うことができるのみです。しかし、今でもカセットテープの教材を先生が使用される可能性があったり、第二外国語教材などで稀に、カセットテープでしか提供されていない音声教材もあつたりしますし、なにより、音声を加工してファイルを作成するには多少の時間がかかってしまうため、カセット、MDのようなメディアを事前に変換作業することなくそのまま使用できる、というのは、教卓側では便利な機能です。

一方、学生ブースのほうではMDの使用ができるものの、CD、またはUSBメモリからパソコン経由で音声を聞くことが定着してきているようです。CDやUSBメモリに保存された音声は、iPodやmp3プレーヤー、携帯電話など、自分のニーズにみあったプレーヤーに転送して再生することもできます。特にUSBメモリの場合は、ファイルの保存や消去も簡単で、OSも選ばず、他の文書ファイルなどとも一緒に保存できるため、非常に利便性が高いメディアとして学生の間でも広く普及しています。語学教材に付属する音声もCDによるものがほとんどになった現在では、一般でも、「オーディオプレーヤーとパソコンで両用できる」メディアが利便性に富み、好まれています。

音声ファイルの作成と利用

カセットやMDから音声ファイルを作成したり、映像から音声だけ取り出す必要がある場合は、語学センター事務室で作業ができます。カセットからCDへのメディア変換は録音時間分の作業時間がかかってしまいますが、作業自体はとても簡単で、個人でも手持ちのオーディオデッキとパソコン、それを接続するコードがあれば、あとはフリーのソフトウェアで賄えますし、パソコンへの負担も大きくありません。

代表的な音声ファイルには未圧縮で容量の大きい.wav、音質を保持しつつ圧縮をかけて容量を小さくした.mp3があります。更に、iTunesというソフトウェアで主にサポートされる.m4aやWindowsで主にサポートされる.wmaなどがあります。ファイル形式については、パソコンから音声を取り込む際に、ソフトウェア側で指定できる場合もありますし、他のフリーソフトウェアを使っての変換もできます。前述の4つのファイル形式はどれもウェブページから直にリンクさせて再生できますが、.wmaはセンター内のメディアサーバからストリーミングさせることもできます。

また、語学センターでは全教室で「eCALLソフトレコーダ」という、音声ファイルを配布したり、学生の音声を録音できるソフトウェアが使用できます。扱える音声ファイルはwavまたはmp3です。教材音声と自分の録音音声の波形を比較して音読のヒントにしたり、教材音声の再生速度を変更してのリスニング練習もできます。

*前号で「外国語に想う【25】」と表記されていましたが、正しくは「外国語に想う【24】」でした。ここに訂正いたします。3



◆ eCALL ソフトレコーダ画面

画面上部は教材音声の波形。学生の声を録音すると、画面下部に波形が表示される。

語学センター事務室をのぞいてみよう！

今年から全学部1年生の必修となった「CALL英語集中」。これは約10週間の自習型英語学習プログラムで、授業の履修者は語学センター自習室と情報処理センターで授業の空き時間にパソコンを使って英語を学習するというものです。学習内容は、リーディング（80英文）・リスニング（1600問）・文法（700問）の3項目です。

みなさんは、これだけたくさん問題がどこで作成されているかご存知ですか。実は、これらの問題は全てオリジナルで、語学センターの事務室などで作成されているのです。現在、週に1度4名の方が問題の作成や完成した教材のチェックに語学センター事務室にきています。その内、2名はカナダ人で、問題の作成だけでなく、リスニングの音声の録音も語学センターのスタジオで行っています。

事務室で教材のチェックを行っている様子です。この日は、主にスピーキング問題のチェックに取り組んでいました。



また、今年の11月から始まった「社会人の学び直しeラーニング講座」の担当者1名が事務室に勤務しています。（この講座では公民館などを利用して、広島市の方々がインテンシブ英語学習プログラムを受講しています。）2007年度は、「受容技能・文法力養成プログラム」「発表技能プログラム」の二講座が実施されます。2009年度には、「小学校英語指導者養成プログラム」「通訳ガイド養成プログラム」という新たな二プログラムが開始予定です。

このようにますます活気を増していく語学センター事務室では、みなさんの語学の学習が円滑に進むよう応援しています。



インテンシブプログラム
担当 徳島さん



社会人学び直し講座
担当 福永さん

映画上映会 報告



ホテルルワンダ上映中

12月10日～12月21日の2週間に渡って、語学センターでは、毎冬恒例の映画上映会を開催しました。今年は、「世界の映画～自分を広げるワールドムービー～」というテーマで、全10作品の映画を上映しました。上映会参加人数は、延べ31名でその内28名が感想文を提出してくれました。提出された感想には、例年のように「また上映会を開催してほしい」という声に加え、「各国の文化やこれまで知らなかった歴史を知ることができてよかった」という声がありました。今回の上映会上映作品は、語学センター自習室で鑑賞することができるので、今回の上映会で見逃した人ももう一度見たいと思う人も是非自習室で鑑賞してください。

上映作品タイトル *カッコ内は、背景となる国名

- 『モンスーン・ウェディング』（インド）
- 『恋愛睡眠のすすめ』（フランス）
- 『モーターサイクルズダイアリーズ』（アルゼンチン）
- 『ホテルルワンダ』（ルワンダ）
- 『ラストキング・オブ・スコットランド』（ウガンダ）

- 『クイーン』（イギリス）
- 『少女の髪どめ』（イラン）
- 『トンマッコルへようこそ』（韓国）
- 『スイート・ヒアアフタ』（カナダ）
- 『単騎、千里を走る』（中国）

視察報告

- 8/7～8 オープンキャンパス
- 8/22 安古市高校PTA 30名
- 10/18 呉市立呉高校 43名
- 10/31 福山市立女子短期大学 4名
- 11/2 芸北中学校 31名



オープンキャンパスの様子

8月7日のオープンキャンパスでは、404教室で池田准教授が「ハリーポッターでディクテーション」というテーマでデモ授業をされました。

発行日 2008年1月25日
発行 広島市立大学語学センター
〒731-3194
広島市安佐南区大塚東3-4-1
編集 堀本真由美
伊達美和子（内線：6410）
Phone (082)830-1509
Fax (082)830-1794
E-mail lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp
ホームページ
<http://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html>